

NPO 法人ロシア極東研 / サハリン・樺太史研究会

11月共催研究会

1905年7月、サハリン島ヴラディミロフカ占領と 義勇兵・住民の虐殺 — 「山本大尉作業」の分析 を中心に

講師 サハリン近現代史家 板橋政樹 (日本ユーラシア協会会員)

ヴラディミロフカ占領戦は、日露戦争中のサハリン島=樺太の戦闘。合衆国大統領による講和勧告の後、日本は、講和談判を有利に進めるべくロシア領サハリン島に侵攻。優勢な戦力を背景に、7月8日、コルサコフ (日本名:大泊) を、次いで10日、ヴラディミロフカ (日本名:豊原市-北豊原駅付近・現ロシア名:ユジノサハリンスク) を占領した。

日時 11月21日(水曜日) 午後6時~8時半

会場 北海道大学学術交流会館第4会議室(正門を入り、左手すぐ)

定員 40名(申し込み不要。直接会場にお越し下さい)

公共交通機関の利用を

会費 学生及び共催団体会員は無料 一般市民 500円

(研究交流会 ; 研究会終了後、会場近くの「だんまや水産北口店」にて。会費3千円)

板橋講師の主要参考文献

「退去か、それとも残留か」、原暉之編著『日露戦争とサハリン島』北海道大学出版会、2011年刊行、所収。
M・S・ヴィソコフほか著/板橋政樹訳『サハリンの歴史』北海道撮影社、2000年、など

企画 NPO 法人ロシア極東研

共催 NPO 法人ロシア極東研 / サハリン・樺太史研究会

問合せ 極東研事務局 佐々木洋 ☎011-561-0258 メール mysasaki@jcom.home.ne.jp